

平成 28 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	無加温ハウス栽培に適する促成向けいちご品種	
[要約] 岩手県沿岸南部における促成向けいちご品種の無加温ハウス栽培において、「紅ほっぺ」が収量性及び冬期の草勢に優れる。				
キーワード	いちご	無加温ハウス	品種比較	技術部 南部園芸研究室

1 背景とねらい

岩手県沿岸南部では比較的冬期温暖な気候を活かし、無加温ハウスで促成向けいちご品種の栽培が行われている。この作型は初期から保温を行うもので、加温設備を使わず低コストで導入が可能である一方、冬期の草勢維持や収量の低さが課題となっている。

そこで、無加温ハウスにおいて現地慣行品種「カレンベリー」よりも草勢を維持しやすく収量性に優れる品種を選定するため、主な促成向け品種「紅ほっぺ」、「かおり野」、「もういっこ」、「やよいひめ」について調査した。

【平成 27 年度 試験研究を要望された課題「地域適応性の高い無加温促成栽培向けいちご品種の選定」(大船渡農業改良普及センター)】

2 成果の内容

(1) 収量性及び冬期の草勢に優れる品種は「紅ほっぺ」である。

ア 商品収量は「紅ほっぺ」が 713g/株 (3.6t/10a、5,000 株換算) と最も高い(表 1)。

イ 上物収量(規格 3L~A の収量)は「紅ほっぺ」が最も高い(図 1)。

ウ 初期収量(3月までの商品収量)は「紅ほっぺ」が最も高い(表 1、表 2)。

エ 冬期の草高は「かおり野」及び「紅ほっぺ」がやや高く保たれる(表 1)。

(2) いずれの品種も 3月収穫の果実において商品果率が低くなる傾向がある(表 2)。

これは厳寒期の 1, 2月(図 2)に開花・結実する果実で受精不良が起こりやすいためであり、保温が重要となる。

3 成果活用上の留意事項

(1) 本作型では 5℃以上を目標に保温を行う。

(2) 「かおり野」の栽培に当たっては、品種育成元である三重県から生産許諾を得る必要がある。

4 成果の活用方法等

(1) 適用地域又は対象者等

いちご無加温ハウス栽培を行う生産者及び指導者

(2) 期待する活用効果

多収品種の導入による収量の増加及び収益性の向上

5 当該事項に係る試験研究課題

(H25-03-3000) 地域適応性の高い無加温促成栽培向けいちご品種の選定 (H27 県単独)

6 研究担当者

千葉彩香、有馬宏

7 参考資料・文献

(1) 「冬春どり促成いちごの栽培法」, 平成 2 年度岩手農研試験研究成果

(2) 「イチゴ無加温ハウス栽培におけるクラウン加温の効果」, 2016, 東北農業研究(69):83-84

(3) 「低温条件下でのクラウン加温によるイチゴの開花と収量への効果」, 2017, 園芸研(16 別 1) 未定稿

8 試験成績の概要（具体的なデータ）

表1 各品種の収量及び特性

品種名	商品収量 (g/株)	初期収量 ^{※1} (g/株)	商品果1果重 (g)	冬期の草高 ^{※2} (cm)	花房数 ^{※3} (本/芽)	芽数 (個/株)
紅ほっぺ	713	65	12.8	12.5	6.6	5.1
かおり野	663	43	12.1	13.4	6.3	5.3
もういっこ	610	37	12.7	10.6	5.4	6.2
やよいひめ	522	0	17.6	9.2	4.4	4.2
カレンベリー	512	14	11.1	9.6	4.6	6.7

※1 3月までの商品収量 ※2 11~2月の旬別草高の平均値 (n=10)

※3 株のうち最も開花の進んだ1芽について、6/30までに開花した花房数 (n=10)

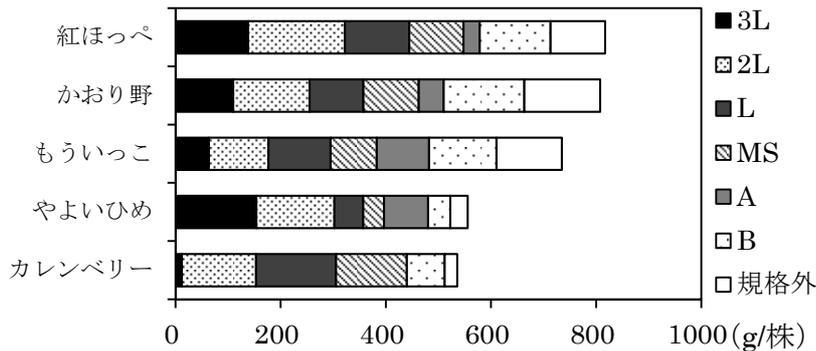


図1 規格別収量

【耕種概要】

- ・栽培期間 2015. 9. 22~2016. 7. 31
- ・陸前高田市にある鉄骨ハウス（間口 7.2m、奥行 27m、軒高 3m）での高設栽培（発泡スチロール栽培槽）。
- ・苗の花成処理なし。畦間 160cm がブルベッチに株間 25cm の 1 条植え。
- ・ヤシ殻培地、タンクミックス F&B 処方 の点滴かん水施肥 (0.4~0.8dS/m)。
- ・局所加温なし、電照なし。
- ・無摘花、芽数放任。
- ・11~2月 は週 1 回人工授粉、3月以降ミツバチ導入。

表2 時期別総収量及び商品果率

品種名	上段：総収量 (g/株)				下段(斜字)：商品果率 (%)				計
	11, 12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	
紅ほっぺ	2 (100)	19 (100)	39 (93)	22 (36)	40 (72)	332 (97)	219 (93)	144 (65)	817 (87)
かおり野	3 (88)	17 (96)	12 (40)	38 (51)	82 (86)	350 (97)	154 (87)	151 (50)	807 (82)
もういっこ	0 (-)	6 (78)	28 (87)	18 (43)	51 (66)	294 (91)	149 (92)	189 (72)	735 (83)
やよいひめ	0 (-)	0 (-)	2 (0)	1 (0)	24 (96)	401 (98)	81 (90)	46 (75)	555 (94)
カレンベリー	0 (-)	1 (100)	0 (-)	17 (75)	70 (96)	290 (100)	91 (95)	67 (83)	536 (96)

【表1、図1及び表2 補足】

総収量（商品収量+規格外収量）は 2.0g 以上の果実を計測した。規格は「岩手県青果物等標準出荷規格」に準じ、商品果は 4.0g 以上の正常果及び 6.0g 以上の品質・形状の劣るものとした。

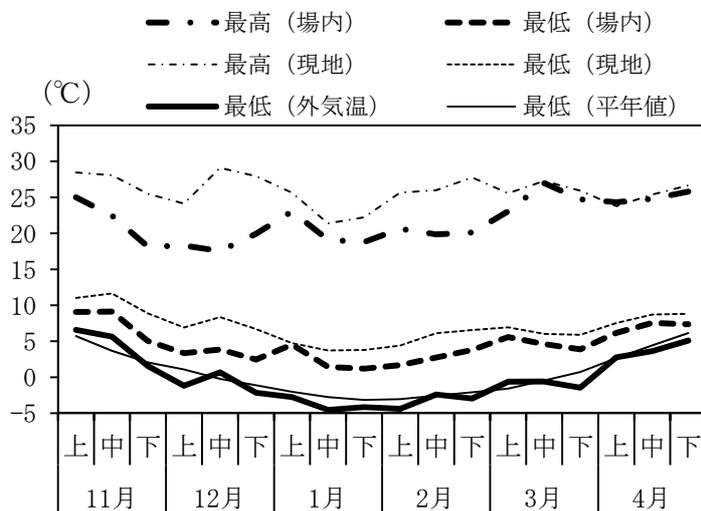


図2 旬別株元温度及び外気温

表3 場内及び現地調査圃の保温方法

	場内 (高設)	現地調査圃 (土耕)
ハウス	鉄骨	パイプ
内張り	なし	一重
トンネル	二重	二重
被覆資材	(0.02mm 農 P0 +夜間シルバ 一ポリトウ)	(0.075mm 農 P0)
トンネル 被覆期間	10月下旬~4月上旬	

【図2 摘要】

- ・点線及び破線は株元気温（株元 20cm 高の温度）の日最高または日最低気温の旬別平均値を示す。「現地」は陸前高田市横田の現地調査圃の値。
- ・実線は外気温を示す。平年値は気象庁の大船渡観測地点の値。